

## 平成 30 年度第 1 回古賀市健康づくり推進協議会議事録（要旨）

1. 開催日時 平成 30 年 6 月 12 日（火）19 時～21 時
2. 開催場所 サンコスモ古賀 201・202 研修室
3. 会議次第

1. 委嘱書交付
2. 保健福祉部長あいさつ
3. 委員紹介
4. 事務局紹介
5. 協議事項
  - ①平成 29 年度の保健事業の実績について
  - ②ヘルスアップふらん（第二次古賀市健康増進計画及び古賀市食育推進計画）に関する取組について
  - ③自殺対策計画策定について
6. その他

4. 出席委員 古賀市健康づくり推進協議会委員  
出席委員：13 名  
欠席委員：3 名

5. 傍聴者 無

6. 議事概要
  - ①平成 29 年度の保健事業の実績について
    - ・ 特定健診・がん検診の受診状況について
    - ・ 家族コツコツ健康づくり事業実績について
    - ・ 健康づくり関連サポーター実績について
    - ・ 健康づくり講座について
    - ・ ヘルス・ステーション設置、活動状況について
    - ・ 食育の取組について
  - ②ヘルスアップふらん（第二次古賀市健康増進計画及び古賀市食育推進計画）に関する取組について
  - ③自殺対策計画策定について

## 健康づくり推進協議会での質疑応答・意見交換

<b>特定健診・がん検診の受診状況について（資料1）</b>	
委員	古賀市として、受診率アップの取組はどのようなことを行っているのか。
課長	個別に市民に対する電話での受診勧奨、出前講座を活用した受診勧奨や、けんしん割という健診受診後にメリットがあることや、窓口に来庁された市民へも健診の受診勧奨を行っている。
委員	特定健診（受診料）が500円と値下げしたが、その効果はどうか。
課長	平成27年度から平成30年度の3年間では、受診率が10%アップしている状況。
委員	（特定健診受診料を）500円に下げて、目に見えた効果は何があるか。
課長	市民から（安くなったと）声は聞くが、目には見えていない。 他の取組と合わせた受診率アップをめざしている。
委員	アピールの仕方が十分ではないのではないか。 （健康チャレンジ）10か条と合わせて、もう一度考えていく必要があるのではないだろうか。
課長	個人へのPRには限界がありそうだが、地域の皆様との協力をとりつつ、その土壌の醸成をしながら受診率アップをしたいと考えている。
委員	医師国保は、3年連続健診を受診すると、（健康）保険料が低下する。3年受診しないと保険料が上昇する。がん検診のアナウンスも積極的に行ってほしい。
<b>健康づくり関連サポーター数（資料3）</b>	
委員	表に数値があるが、グラフにないものがある。子育てサポーター数がグラフから抜けている。
係長	子育てサポーター数は、グラフから抜け落ちていたため、訂正を行う。

	<b>健康づくり講座について（資料4）</b>
委員	出前講座での住民の興味の高いものは何か。
係長	健康測定の出前講座の人気が高い。 （測定）結果を見ながら、その結果説明や講話を受けるものは、一般的な講座より人気がある。
	<b>ヘルス・ステーション設置、活動状況について（資料5）</b>
委員	健康チャレンジ10か条が、地域に浸透しているところはあるか。
係長	（健康チャレンジ10か条を）出前講座で話すとわかりやすいと言われている。 始まったばかりなので、これから周知したい。
	<b>ヘルスアップぷらん（第二次古賀市健康増進計画）について（資料7）</b>
委員	今回のヘルスアップぷらんの取組みについて、市長はどのように考えているのか。
保健福祉 部長	市長は健康に非常に関心がある。地域を巻き込んで、活性化、地域力を上げたいと考えている。行政の力だけでは、まかなえないので、健康を切り口に地域に入って活動を推進したいという考えを持っている。
委員	今年度（ヘルス・ステーションは）どこが立ち上がりそうか。
係長	花見東1区、日吉台区から設置に向けた意向を聞いている。町川原1区は、地域リハを行っており、ヘルス・ステーション設置に向け手がかりがありそうに感じている。6月29日には、ヘルス・ステーション情報交換会を開催する。その中に、千鳥東区の参加意向があると聞いている。
委員	青柳校区に設置の情報はないのか。
係長	青柳居住のサポーター（健康づくり関連サポーター）で、なぜヘルス・ステーションがないのかと思う市民はいる。これから活動を検討しているのではないかと感じている。
委員	268人の（健康づくり関連）サポーターは無償か。

係長 委員	<p>ポイント制や換金制度をとっているものもある。</p> <p>ヘルスアップぷらんは、素晴らしいものに仕上がっている。実現に向けて動いてほしい。自分の健康マイレージがポイント制になるという取り組みがあるが、人のために動くものがポイント制になる方がとても良い。自分の健康マイレージは、健康のためとはなりにくく、ポイント取得が目的になりやすいという欠点がある。健康が目的となるような仕組みを考える必要があるのではないか。</p>
委員	ヘルスアップぷらんはどこまで配布したか。
係長	概要版は区長へ配布している。
委員	(健康づくり関連) サポーターはこのぷらん(計画書)を持っているか。
係長	これから配布したいと考えている。
<b>健康チャレンジ10か条について(資料9)</b>	
委員	健康チャレンジ10か条の発表会は、毎年行ってはどうか。個人や団体に対し取り組みのPRを行ってはどうか。
委員	委員の発表会という提案、とてもいいと思う。市民のつながり作りになるものではないか。つながり作りがキーワードとなって、市民の輪が広がってくる。これからは、人間関係作りが大切となっている。健康格差が問題視されているが、つながりづくりがキーワードとなり、その縮小につながるのではないかと考える。人から人へ声かけで広める、そのシステム作りが大事である。
<b>地域自殺対策計画策定について 生きる支援(自殺対策)関連事業・業務の棚卸しについて(資料12、資料16)</b>	
委員	<p>(生きる支援関連事業・業務の) 棚卸しが理解しにくい。</p> <p>具体的にどういったところにアプローチをかけるのか教えてほしい。</p>
保健福祉 部長	市役所内は、各課の目的に向かって仕事をしているが、自殺対策という視点で庁内業務を洗い出す作業となる。
委員	<p>医師としても、悲しい現場に立ち会う場面はこれまでもあった。</p> <p>粕屋署から、現場を経験されている立場としてコメントをお願いしたい。</p>

委員	<p>まずは、そういう現場では事件性の有無を確認する。自殺企図者からの110番の通報もある。家出人や行方不明者のメールも来る。“死にたい”と訴える状況もある。自殺の原因がプロフィールでもあったが、確かに若い人は仕事や人間関係の悩みが多い。高齢者の自殺の増加は、個人的な感想ではあるが、増加しているように実感している。病気の悩みや介護の悩みを抱えている人が自殺になることが多い。たとえ、遺書があっても室内をみせてもらうようにしている。これからどう減らしていくことがいいのか、すぐに答えを出せない。永遠のテーマと感じている。みなさんからの智恵を拝借して考えていきたい。</p>
委員	<p>富士見町という町が、自殺対策を先駆けて実施していると聞いている。</p> <p>医療でもうつ対策に心がけて日々診療している。粕屋管内には、精神科の医療機関や診療所があり、心の変調でうつをきっかけで受診した場合は、SDS アンケートを実施し、専門医療機関へ紹介している。紹介だけでは、未受診となつては意味がないので、受診確認のため3日後に受診予約をとり、それを目標に生活してもらっている。</p>
委員	<p>(自殺プロフィール資料より) ハイリスク地とはどういう意味になるのか。</p>
主任主事	<p>先ほどの自殺プロフィール資料のハイリスク地は、自殺の多い場所かを判断する項目である。、(自殺者の) 発見地と住所地が違うことがあり、このデータからは本市は自殺の名所ではないことを表している。</p>
委員	<p>県内に精神科救急病院という夜間でも緊急時に受診するシステムもある。</p>
委員	<p>孤独は、短命になるという論文がある。孤立から孤独へとつながっていく。誰かと住んでいても孤独を感じることもあるかもしれない。そういう意味でも地域で誰かが声をかけるシステムが必要だと思う。</p>
委員	<p><b>自殺総合対策大綱 (資料13)</b></p> <p>資料にある(生きることの) 阻害要因は、消してもそれ以上減らず、他に不安が出てくる。反対に促進要因は、やればやるほど増えていく。促進要因をさらに増やすような取り組みを大事にしてほしい。</p>

**地域自殺対策計画策定について（資料12）**

委員

自身の活動で、高齢者のサロンのスタッフを行っている。地域の人たちの声かけでやっと参加者が出てきてくれている。つながりをどうつくっていくか、実感しているところである。

委員

横のつながりをどうつくっていくか。大切なことである。

委員

自殺の推進本部はどこになるのか。予防健診課以外の重点的なものもあるように感じるがどうか。

係長

予防健診課が（自殺総合対策大綱）にあるようなすべての分野について、網羅しているわけではない。庁内の横のつながりを大事にしながら、市民と接する多くの窓口があるので、計画を推進していく段階で体制を検討していきたい。

委員

学校現場での心の健康づくりや SOS の出し方教育など、具体的な取り組みを聞かせてほしい。

委員

高校では、いじめの問題が大きい。阻害要因を減らす取り組みとして、毎月1回生徒にいじめに関する記名式アンケートや年に2回無記名アンケートなど実施している。スクールカウンセリングや PTA 予算での毎月1回のカウンセリングを実施している。促進要因を増やす取り組みとして、クラス外での場所として部活や校外活動としてボランティア活動を推進している。生徒自身が学校外での場所で褒められることで、自己肯定感を育てることになっている。先生も生徒からの誉め言葉が支えになっている。

委員

小学校は、全校生徒が427人であり、いじめに関する調査は、月1回行っている。特に小学校は、学級の取り組みが大切なので、学級のつながりが深まる行事や地域の方々との交流、保育所、幼稚園、老人ホームの人々との交流を行っている。今年度は、学級の旗を作る活動を通じて学級の仲間づくりを大切にしている。無届の遅刻や欠席の生徒には、担任が訪問して声をかける取り組みや、朝来れない子へサポートを行っている。

係長

貴重なご意見ありがとうございました。  
本日頂いたご意見をまとめた議事録を後日送付するので、再度確認いただきたい。